※社外向けの「PCアイ」はPDFファイルにて掲載いたします。クリックなどの操作は不可となっております。予めご了承ください。

NTTPC 社内広報誌 PCアイ

毎月19日発行（トークの日♪）

今月のINDEX

バックナンバー 過去のPCアイはこちら

2015年6月19日号の内容は:

- 特集:ネパール大地震を経験して
- 「NTTPC Credo」チョットだけヨ！
- パートナー企業 営業さんいらっしゃい！
- 社長対話会、中間まとめっ！
- おすすめ育成スキーム紹介！
- プチ情報:改定します『情報セキュリティ規程』
- 働くママ・パパ「Club39（サンキュー）」
- 【偶数月は】神田だより
- 出ました っ、沼尻アイ！
- 突撃レポート！美人広報員が行く！
- 短期集中講座（法務考査発！）
- CSRの森
- サクライ図書館 今月のおすすめ
- 目指せサービス向上！お客様サポートセンタより
- NTTPCドキドキリレー
- ビバ！ヘルシーライフ
- エトセトラ（あんなこと、こんなこと）
- イベント・セミナー
- 経営会議より
- 発令（採用・転入）の紹介
- PCアイ閲読率
- アンケート♪
- 編集後記

特集 ネパール大地震を経験して

▲ページTOPに戻る

4月25日（土）。現地時間、11時56分（日本時間15時11分）。
ネパールの首都カトマンズ北西77km付近、ガンダキ県ゴルカ郡サウラパニの深さ15kmを震源として発生した地震が発生しました。
その時偶然にも、NTTPCではおなじみの登山家・山下さんがエベレスト山頂をめざしていたのです。
生死を分ける、瞬時の判断とはいかに。そこで得た貴重な体験を、本人に伺いましたので、皆さんに紹介します。

職場の皆さんのご理解・ご協力のもと、長い休みを頂戴してネパールのエベレスト登山に挑戦してきましたが、登山中に発生した大地震の影響により、残念ながら登頂を諦めざるを得ませんでした。先日、無事に帰ってきましたので皆さんにも状況を簡単にレポートします。（※「ネパールってどこ？」っていう人は、こっそりここをクリック！）

≪全体スケジュール≫

4/09（木）:日本発。長い旅の始まり
4/11（土）:エベレスト街道トレッキング開始
4/22（水）:高所順応のためロブチェ・ピーク(6119m)に登頂
4/23（木）:エベレストベースキャンプ(5350m)に移動
4/25（土）:M7.8の地震による雪崩発生、レスキュー活動
5/01（金）:エベレスト・ローツェ隊の撤退決定
5/02（土）:エベレスト街道沿いの集落の被害状況を確認しながらルクラへ
5/07（木）:カトマンズに帰還
5/08（金）:ボランティア活動開始。ネパール政府から承認を経て活動スタート。捜索、救護、被災状況の調査、支援物資の配布など
5/28（木）:ネパールを出国
5/29（金）:帰国

晴れた日の「プモリ」

≪出発≫

4月8日、出発前日。エベレスト山頂で掲げる予定の旗に、山に登る先輩たち（浅田さん、金山さん）が応援メッセージを書いてくれました。4月9日に出国、ネパール・カトマンズでの準備を経て、4月11日には山岳地帯に入ります。
食事が合わずお腹を壊して苦しむなど、ネパールの洗礼を受けつつも、4月22日には高所順応のため、標高6119mのロブチェ・ピークに登頂しました。この程度の高度なら充分に余裕を持って行動できます。

≪エベレストBC（ベースキャンプ）≫

4月23日には標高5350mのエベレストBCへ。エベレスト・ローツェ登山隊はここをベースに一か月程度過ごすことになります。エベレストBCには隊の全員が集まってくつろげるサイズの大きなダイニングテントを設営。他、各隊員が寝泊まりする個人テントと、衛星携帯電話や無線機器などに電力を供給するためのエレクトリックテントを設営しました。ここはエベレストへの登山ルートであるアイスフォールが眼前に迫る場所。エベレスト登頂に向けて気持ちが高まり、期待に胸を膨らませていた、そんな時に地震が発生しました。

≪地震、雪崩、レスキュー≫

4月25日、11時56分。
ネパール・カトマンズ北西を震源とするM7.8の地震が発生。多くの余震が続き、ネパールの人口2780万人に対して9000人近くが亡くなる震災となりました。
地震発生当時はエベレストのベースキャンプ(5350m)にある個人テントの中。寝転がって、デジカメで撮った写真の整理中でした。
かなり大きく長い揺れではあったものの、寝転がっていたため転倒することもなく、自分の身の心配よりも登山ルート（アイスフォール）の方が心配になりました。

雪崩に巻き込まれた直後

テントの入り口を開けて首を出し、アイスフォールの状況を確認。どうやら大丈夫、雪崩は発生していない、とテントの中に首を引っ込めようとした時に視界の隅に違和感を覚えました。振り返ると大規模な雪崩の先端がすぐそこまで迫っています。雲まで届く高さと、そのスピードを考えると、「とてもじゃないけど逃げ切れるわけがない」と、瞬時にその場にとどまる判断をしました。後の検証では、高さ100m（西新橋ビルの1.5倍、有楽町イトシアと同じ高さ）の雪煙が時速170kmで迫ってきていたようです。

多数のテントが全壊

「逃げ切れないのであれば、その場で生き残るために必要な努力をしなければ…」。生存可能性を少しでも高めるにはどうしたら良いかを考えた結果、吹き飛ばされるリスクを覚悟してテントの中で待機することに。爆風が吹き込まないようにファスナーを閉め、靴はテントの前室に。テントごと転がされて出られなくなる場合を考え、テントを切って脱出できるように、手にはナイフを持ちました。

数秒で爆風がテントに到達。激しく押され、飛ばされそうになるのを必死で押さえます。時速100km程度の暴風なら国内でも経験済みですが、時速150km～200kmの風は未経験。それでも、耐えるしかない状況でした。

数分後、爆風が弱まったタイミングでテントの外へ出ました。靴の中は雪だらけでしたが、全ての雪を掻き出す間も惜しんで履きました。目の前にあったはずのたくさんのテントが吹き飛ばされ、破壊され、辺り一面は雪が吹き付けられ真っ白になっていました。

この時点で、通常の登山活動は継続できず、「非常事態」と判断。同時に頭のスイッチを切り替えて行動を開始しました。不思議と地震や雪崩に対する恐怖感はなかったです。非常事態だからこそ、慌てずに、冷静に、周りを励まし、鼓舞し、隊員全員がこの場を切り抜けて生きて帰れるように動き続けました。

真っ先に行ったのは、仲間たちの無事の確認。
軽傷者はいるものの、重傷・重体・死者はいなくてほっと胸を撫で下ろしました。隊長が衛星携帯で日本やカトマンズのエージェントに指示、情報を入手している間に、隊員は隊を立て直すため、飛ばされたテントや物資の回収を行いました。最優先はソーラーパネルの確保。衛星携帯さえ使えるなら、最悪の場合は外務省ルートで自衛隊機での救助も要請できる、との判断です。登山期間は5月末と設定し、そのための物資を運んでいたため食料は潤沢でした。

2回目の雪崩の瞬間

飛ばされた物資の回収がひと段落したころ、隊長からの指示でレスキュー活動へ。
自隊では軽傷者のみでしたが、他隊では多くの死傷者を出しており、動ける登山者が協力して負傷者を搬送する必要があるとのこと。空気の薄い高所で搬送する人間はとても重く感じ、久しぶりに身体が動かなくなるまで全力で活動しました。

≪撤退の決定、会社への連絡≫

その後、数日はエベレストBCにとどまることに。
高所で体力を削られている隊員もいるため、4月30日には標高を下げ、エベレストBCから数キロ離れた集落へ移動しました。とても残念ですが、そしてある程度は予想していたことです。ここで今季のエベレスト・ローツェ登山隊の撤退が決定しました。他国の隊も全て撤退、今期はネパール側からも中国（チベット）側からも登頂はできないとのことです。
この集落ではネパールの携帯電話会社(ncell)の電波が通じるので、石川課長にメール、地震により撤退することを伝えました。「無理しないで帰ってくるように、休みが延びても気にしないように」と温かい言葉をくださいました。

≪ボランティア活動の開始≫

被災者の手当て

カトマンズに向けての下山の途。何日もかけて降りていく間に考えました。「いったい何をしに来たんだろうか…」「この非常事態に、何かできることは無いのか？」「このまま被災地に背を向けて帰れるか？」
自分の不在の間に穴を埋めてくれている先輩・後輩たちには申し訳ないけれど、このままこの被災を放っては帰れない。ネパールで、少しでも支援活動を行ってから帰りたい。そう思って、現地でのボランティア活動をスタートしました。
下山後、ネパール政府から許可を受けて、ボランティア団体として活動を開始。カトマンズ近郊の集落7か所（1000世帯程度）を周り、被害状況の調査、怪我人の救護、支援物資の配布などを行いました。

≪続く余震、捜索・救護活動≫

5月12日、最大の余震(M7.3)が発生。
支援活動のため、ほぼ全ての家が全壊した集落を訪問していた時のことでした。揺れ始めた途端に裸足で逃げ出す住民たち。メインストリートで避難誘導をする自分の背後で、大きな音を立てながらレンガ作りのビルが倒壊し、土煙が立ち込めました。「あの中に人がいたらどうなっているだろう…？」
余震がおさまり、隊員の無事を確認した後、隊長は踵（きびす）を返して倒壊したビルの方向へ向かい、自分も後を追いかけて捜索・救護活動を実施しました。幸いにも埋もれた人は居らず、避難時に軽いケガをした人の手当のみですみました。危ないところでした。

ボランティア活動時に余震。近隣のビルが倒壊し捜索活動中

≪ボランティア活動の区切り≫

子どもたちの笑顔が復興への力に

今回の地震ではネパール全土が揺れたこともあり、被害の大きな地域には未だ手つかずの集落もあります。全ての被災地を周り、全ての被災者が満足するまで支援することは事実上無理なので、このボランティア活動をどこで区切るかの判断は、非常に難しいポイントでした。できる限り長く支援活動を行いたい、とは思うものの、仕事もあるので当初予定していた登山期間までを活動期間とし、5月28日にネパールを出国、帰途につきました。

≪帰国、意外で嬉しい言葉≫

不在中はたくさんの方に大変な思いをさせてしまい、またご心配をおかけしました。
ありがとうございました。6月1日に出社し、無事に仕事に復帰しましたが、この日にはとても嬉しい言葉をもらいました。
これまでの海外登山遠征では、毎回のように宮原部長から「いつまでも遊んでないで仕事しろ」とお小言を頂戴していましたが、今回は「**やるべきことをやってきたな、また仕事も頑張れ**」と激励の言葉をくださいました。かなり気にかけてくださっていたようで、本当にありがたかったです。

宮原部長

◇PCアイ編集部より◇
「命をかけて山頂に向かう」。登山家ゆえにこうして生きているのだ。そしてそれを支える人たちも多く存在する。冒頭にでてきた「応援メッセージ」が、まさしくその表れだ。今回、その写真を表面上には掲載しないが、あえてここをクリックしてほしい。私たちは命をかけて、何かに向かって真剣に取り組んだことがあるだろうか。恥ずかしいが私の答えは「No」だ。今回、この記事を編集してよかったと思っている。

「NTTPC Credo」チョットだけヨ！

▲ページTOPに戻る

今回は「NTTPC Credo」解説の3回目です。サービスビジョンに込められた思いを説明します。
★そろそろe-ラーニング「レッツ、エンジョイ『NTTPC Credo』エクササイズ！」が始まりまーす！ガルーンの掲示板を要チェック！

◇1回目の解説はこちら。（企業理念）
◇2回目の解説はこちら。（サービスビジョン1）

⑥ CDIというワードはまだ世の中に出てきたばかりの言葉であるため、NTTPCが考えるCDIの内容を、ここで説明しています。「お客さま」＋「クラウド」「モノ」＋「クラウド」「データ」＋「データ」　など

⑦ サービス工学（サービスエンジニアリング）では、サービスを「サービスの提供者であるプロバイダが、対価を伴って受給者であるレシーバが望む状態変化を引き起こす行為」と定義しています。つまりお客さまのビジネスに望ましい変化を起こすこと、これがNTTPCが提供するサービスの本質となります。勿論、再現性や形式知を活用することも重要ですが、人間による提案能力も重要であり、人間にしかできない部分が「価値」になると考えています。

⑧ サービスビジョンでは「新しい」価値ではなく、「新たな」価値を創造すると標榜しています。これは先端技術の開発・発明で勝負するのではなく、キュレーション・他技術を組み合わせるところで強みを発揮するという想いが込められているからです。つまり、Inventionで勝負するのではなく、Curationの結果としてInnovationを起こしていくことを意味しています。

⑨ NTTPCとお客さまを含めたCSV（Creating Shared Value）の観点もふまえ、現在取組中のIoT（水道メーターなど）のように、結果として社会へのイノベーションに貢献したいと考えています。加えて「イノベーションを実現」という言葉にするとゴールのイメージが強くなるため、進行形・継続性をメッセージできる「推進」というワードにしています。

◀◀クレドチームの打ち合わせ風景

クレドな提案資料のひな形DL

みなさま、大変お待たせいたしました。『NTTPC Credo』デザインのPPTひな形が完成しました。
資料作成の際に、ぜひご利用ください。
（青いグラデーションのは、インクをいっぱい使っちゃいそう…by美）

白地・横向き	白地・縦向き	グラデ・横向き	グラデ・縦向き	全データ
≪ダウンロード≫	≪ダウンロード≫	≪ダウンロード≫	≪ダウンロード≫	≪ダウンロード≫

パートナー企業 営業さんいらっしゃい！ NEW！

▲ページTOPに戻る

NTTPCは、多種多様なパートナー企業のご協力のもと、ビジネスを展開しています。まさしく不可欠な存在なのです。
今回から不定期にて、私たちの仕事に深くかかわっているパートナー企業の営業さんからのメッセージを紹介していきます。
トップバッターは、「はたらくを楽しもう（TM）」でおなじみ、株式会社インテリジェンスさま。
マネージャーの古屋氏に関しては、アスリートの助っ人として、駅伝に参加してくださったこともあります。
では早速、紹介しましょう！

【質問1】NTTPCはどんなイメージですか？
良い意味で、社員様と派遣スタッフの仕切りがなく風通しの良いイメージがあります。
派遣スタッフと、就業状況のお話をする中で「人間関係が本当に良いです」「やる気があれば業務を任せてくださいます」「居心地が良いです」などの声をよく頂戴します。
どこの部署でも派遣スタッフから同じような声をきくので、たまに私も就業してみたいなと思うことがあります。（笑）

顔なじみの営業の皆さん！ 左から、佐々木さま、五十嵐さま、荻野さま、古屋さま ★クリックで拡大しちゃう★

【質問2】どんな思いで、派遣スタッフを送り出していますか？
1年後、2年後ご自身のなりたい姿に近づけていることを、期待して送り出しています。
「スキルアップしたい」「家庭と両立しながら、今までの経験を活かせるお仕事がしたい」「派遣で経験を積んで、いずれは正社員になりたい」など、皆さんさまざまな想いがあり、お仕事を選ばれています。
先日、NTTPC様にて6年間の就業を経て卒業し、ある会社に正社員として転職された派遣スタッフから連絡がありました。
「**NTTPC様での就業経験で身についたスキルを活かして、以前より挑戦したかったお仕事が今出来ています。改めてありがとうございました**」という嬉しいお言葉が届いたのです。
NTTPC様での就業を通して、パフォーマンスを発揮し、なりたい姿に近づけることをサポートしたいと思っています。

駅伝に助っ人参加の古屋さま ★クリックで拡大しちゃう★

（お話を伺った方:株式会社インテリジェンス　五十嵐文歌さま）